甲状腺外科草子 139
哲人宰相：大平正芳余話⑩

杉野　圭三

日中国交正常化交渉（中）

北京空港では周恩来総理が出迎え、儀礼隊の閲兵もあったが、迎賓館に向かう沿道に民衆の歓迎する姿はなかった

迎賓館の部屋は暑がりの田中のために 17 度に設定され、大好物の台湾バナナと木村屋のアンパンが並べられていた。

会談で大平は発言した。「日華平和条約は国交正常化の瞬間において、その任務を終了したということで、中国側の御理解を得たい。日米関係は日本の存立にとり極めて重大である。日中国交正常化をわが国としては対米関係を損ねないようにして実現したい」。

これに周総理は「大平大臣の提案に完全に同意することはできない。サンフランシスコ条約以後、今日まで戦争状態がないということになると、中国は当事者であるにもかかわらず、その中に含まれていない。私は、この問題を二人の外相に任せ、日中双方の同意できる方式を発見したいと思う」

原則論を枉げることは無いが、条約の根幹にかかわる大問題を事務的処理に棚上げするという大技である。

周恩来主催の歓迎会では「さくら、さくら」、「佐渡おけさ」、「金毘羅船々」、「鹿児島おはら節」など、田中、大平、二階堂の故郷の民謡も演奏された。周恩来自ら料理を取り分け、中国側の大歓迎ぶりが分かる。

この時の、田中首相の「**御迷惑発言**」が問題となった。「過去数十年にわたって日中関係は遺憾ながら不幸な経過をたどってまいりました。この間、わが国が中国国民に**多大のご迷惑**をおかけしたことについて、私は改めて深い反省の念を表明するものであります、以下略」。御迷惑は「**添了麻煩**」と翻訳された。

中国側はこの「御迷惑」という表現が、あまりにも軽く、女性のスカートに水を掛けた時の謝罪のようなものだと憤慨した。

この演説原稿を書いた橋本外務省中国課長は「日本が敗戦国で、中国が戦勝国だということは、みんな理屈ではわかっている。けれど日本人の大多数はね、その当時も現在も、アメリカと戦争して敗けたのだと思っている。中国と戦争して敗けたと思ってないのだよね。日本軍が中国にひどいことをしたと率直に認めなければならんけれどね。しかし、日本民族の矜持をなんとしても保てる努力がしたい。そういうつもりで書いているものだから、大平外務大臣も、田中総理も全く修正しなかった」と語る。

翻訳を担当した中国で生まれ育ち母国語のように中国語を使える中国課勤務の小原育夫は、「日本語がもう少し具体的な、例えば、戦争が与えた災難とか苦痛とか、そういったような日本語であれば、当然、逐語的にそれと同じ言葉を持ってくることは可能であるわけです。「ご迷惑をおかけした」という表現であれば、一般的に「ご迷惑をかけた」という中国語の表現を探してくるほかないわけですからね。したがって、それが大問題であるという認識は、私はしておりません」と語った。

スピーチ全体の流れから見れば、謝罪の意図は明瞭である。翻訳原稿はあらかじめ、中国側にも渡されており、この「ご迷惑事件」も外交交渉技術の一つかもしれない。

田中は「ご迷惑」に関する批判に反論した。「ご迷惑をかけたという言葉は、そんなに軽々しい内容のものではない。ご迷惑をかけたという日本語の意味は、あなたが解釈しているような「ごめんなさい」という程度のものではない。わたしは、わたしの誠心誠意を込めて申し訳ないという心情をそのまま表現した、中略」

周恩来は「ウーン」と低くうなり、「わかりました。言葉尻をとってあげつらうのはやめにします。言葉尻ではなくもっと重要な問題があるのだから、そっちへ早く入りましょう」とそれ以上の要求は一切しなかった。見事な駆け引きである。

参考資料：日中国交正常化（服部龍二）など

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2025 年 6 月 6 日